

在宅医療と救急医療の連携セミナー

第34回「在宅医療サークル」アンケート集計結果

回答31件
(R6.11.22開催)

1.所属について



2.セミナープログラム全体の感想を教えてください。



3.1つ前の回答を選択された理由、ご意見等を教えてください。

- ①地域連携がすごかったです(石仏ねっと) 今現在、もしもメモを実施していますがいざと言う時に為になっているのか疑問がわいてきました。
- ②他地区における素晴らしい取り組みを紹介していただいたと思います。
- ③石仏ネットのようなシステムがあると患者、利用者の最新の情報が分かりとても良いと思った
- ④ACP.DNARの確認についてよく分かった
- ⑤舛友先生のお話の中で、在宅看取りの病状の時、よく話し合っていれば家族は救急車を呼ばない、きちんとしたチーム作りが大切だと改めて思いました。
- ⑥今行っている取り組みをみんなで続けていくことがよいことである確認ができた
- ⑦臼杵市の石仏ネットの詳細が知れて大変参考になりました。
- ⑧急変時の現状をお聞きできたこと、臼杵市の詳しい現状（時に人生会議サポーター養成講座）をお聞きできたこと、島原市のACPメモの存在を知れたことです。
- ⑨ACPの必要性は感じましたが 人とのかわりが薄い方もおられるので難しいと思っています。（独居や身内が遠方、疎遠等）
- ⑩各分野から多数の参加があり、興味関心の高さが伺えました。進行もスムーズで時間帯もちょうどよいと思いました。
- ⑪国の動向、臼杵市の取り組みは非常に参考となりました。
- ⑫講師の先生の講話がわかりやすかった
- ⑬取り組みの内容など今後の活動の参考になりました
- ⑭今回のセミナーの目的である「本人の意思を関係機関で共有するための連携ルールを検討するための連携ルール等の検討」として、厚労省からの必要性の説明と先進地である舛友先生の講演を聞いて、とても自地域のことを考え、ディスカッションで現状の課題や今後の連携についても情報提供ができたので。
- ⑮ACPについて進んでいる地域の話や、普段あまり関わることの無い地域の医療機関の先生の考えを聞けたから。
- ⑯意思決定（ACP）を明確することで救急な場合慌てないでよい事が再確認できた

3.厚生労働省の行政説明「急変時における在宅医療の体制整備について」の感想を教えてください。



4.事例紹介「臼杵市 在宅医療・救急医療連携 ACP実践への課題」についての感想を教えてください。



4.オープンディスカッションについての感想を教えてください。



4. 1つ前の回答を選択された理由、ご意見等を教えてください。

- ①急性期やクリニックの先生方のディスカッションをもっと聞きたいと思いました。
- ②先生方の意見や質問を聞いて参考になりました。
- ③ドクターからの直接的な意見が効けて良かったです。
- ④島原市での現場の状況や活動内容が知れて良かったです。
- ⑤島原市の現状が分かった
- ⑥先生方の意見が聞けて良かったです。
- ⑦いろいろな考えを聞くことができ、地域での取り組みを仲間と広げていきたいと思えた
- ⑧制度上の問題点なども答えていただき、とても参考になりました。
- ⑨先生方の率直なご意見を拝聴できたことです
- ⑩医師の方の考えをきくことができ、ACP活用促進への体制づくりの進捗具合が確認できました。
- ⑪先生方の考え方、島原市の取り組みを知ることができた。
- ⑫島原市内のDr.の意見をきくことができた
- ⑬島原市の現状を知ることができました
- ⑭医師の先生方の参加も多く、現状の課題が見えたことと、今後どのようにご本人家族の意思を共有していくかを考えることができたから。
- ⑮普段あまり関わることの無い医療機関の皆さんの考えを知ることが出来たから。
- ⑯厚生労働省の行政説明「急変時における在宅医療の体制整備について」は実務と併せて理解することが難しかった

5. セミナーに参加して、自地域において今後どのように取り組んでいこうと感じましたか。また、自地域のどのような課題に活用可能だと感じましたか。

- ①もしもメモは、島原市のみでの取り組みなのでしょうか。島原半島全域で同じ用紙を使用できると良いのではないかと思います。
- ②医療機関として、ACPを推進しそれを在宅を支える方々に繋いでいけるように取り組みたいと思っています。もしもメモの活用も検討したいと思います。
- ③連携
- ④クラウドを整えようと思ったら、お金が必要と思いました。マイナンバーカードが活用できないのでは残念でした。
- ⑤もしもメモはいい考えであると思ったがそれは薬手帳に挟んだとして薬手帳の場所を本人以外にも把握しておかないといけないと思った
- ⑥ACPを一般の方にも広める工夫、介護が必要な方だけでなく、若い世代にも広める工夫が必要だと思います。
- ⑦もしもメモの普及にさらに協力したいと思います。
- ⑧もしもメモ活用します。
- ⑨ACPの啓発講座の中心を医師だけでなく多職種で行うこと。年1回や2回では啓発にならないと思います。
- ⑩救急で来られた方は保険証（今後はマイナンバーカードになると思いますが）は持参されますが薬手帳や介護保険証は持参されることが少ないので必要なものを保管できる入れ物等を検討してもらえたらと思います。特に高齢者は保管場所を忘れがちだと思います。
- ⑪意思決定に直面する関係者が集まり、話し合い機会が必要だと感じました。
- ⑫消防としてもACPに対する理解を含め、傷病者の意向に沿った活動ができるよう議論の場へ積極的に参加していきたい。
- ⑬本人のピース（思い）を集めつなぎ合わせることが大切との話が印象的で、模索しながら地域の実情に合わせてACPを行うことが必要
- ⑭本人の意向が確認できるように関係性を築き、支援をしていきたいとおもいました。
- ⑮本人・家族の意思決定支援をしっかり行い、支援者間で共有していくこと。もしもメモがその役割を果たせるよう周知していきたい
- ⑯臼杵市では独自のネットワーク「うすき石仏ネット」があり、双方向性情報共有が出来ているという事を知れてとても参考になりました。島原市ではACPについて、これから周知・活用していこうとしている段階ですが、臼杵市のように1つのネットワークで繋がれる仕組みがあれば、もっと連携して色々なことができるなと思いました。また、人生会議サポーター養成講座など他にも面白い取り組みをされていて、今後島原市でも同じような取り組みが出来れば、市民の皆様が豊かな人生を送れる手助けになるんじゃないかなと思いました。
- ⑰地域性や住民の特性の把握が必要であり、また、把握が難しい

6. 在宅医療・救急医療等の連携に関して、どのような内容のセミナーを受講してみたいですか。

- ①グループワーク等があると、いろいろな意見が聞けて良いと思います。
- ②島原市以上に過疎、高齢化が進み、マンパワーも不足している地域の先生の話も聞いてみたい。（近い将来どのように準備をしていけばいいのか）
- ③救急医療との連携
- ④消防署の方のお話
- ⑤医師との連携において事例と通した研修